

<p>平成 26 年 1 2 月 2 4 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>1 月 号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------

農薬は専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう

< 目 次 >

<p>I. 今月の予報</p> <p>【注意すべき病虫害】</p> <p>イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>促成ピーマン：うどんこ病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p>【その他の病虫害】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p>イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ</p> <p>【防除所レポート】</p> <p>平成 27 年版果樹等病虫害参考防除例について・・・・・・・・・・・・ 3</p> <p>短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更・・・・・・・・・・・・ 5</p> <p>II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7</p>	
<p>最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p style="text-align: center;">茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445</p> <p style="text-align: center;">予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;">ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率は平年より高く(本年値 20.1%, 平年値 6.1%), 被害葉率は平年並である(本年値 6.6%, 平年値 9.9%)。なお、寄生葉率は圃場による差が大きい。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除いて同一系統・同一薬剤の連用を避ける。なお、薬剤散布は古い下葉を除去してから行うと効果的である。
③ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病度*は平年並(本年値 2.8, 平年値 4.4), 発生地点率は平年よりやや高い(本年値 100%, 平年値 54%)。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
② 罹病葉は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除いてハウス外に持ち出し、適切に処分する。
③ 薬剤散布は、薬液が葉裏によくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除を行う場合は、天敵への影響に十分注意する。

(促成ピーマン 続き)

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生花率（本年値 57.0%，平年値 33.7%），発生地点率（本年値 100%，平年値 68%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除を行う場合は、天敵への影響に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：やや少ない	12月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。
促成ピーマン	斑点病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
促成トマト	灰色かび病	発生時期：早い 発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	べと病	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。

平成 27 年版果樹等病害虫参考防除例について

参考防除例は、果樹等永年作物の主要な病害虫の発生生態や例年の発生状況の他、薬剤耐性・抵抗性の発達の回避なども考慮して、効果的な防除時期と薬剤を選定して記載しています。一方で、過度の農薬散布を防ぎ、周辺作物へ農薬が飛散するリスクを下げるためにも、根拠に基づいた防除を行う必要があります。そこで、参考防除例の活用にあたっては、環境にやさしい防除技術を導入した上で、病害虫防除所の発生予察情報や自分の圃場における病害虫の発生状況を十分確認し、必要に応じて薬剤防除を行うようにしましょう。

各参考防除例の平成 26 年版からの主な変更点を以下にまとめました。防除にあたっては、これら変更点に十分に注意しましょう。なお、平成 27 年版は、原則として平成 26 年 10 月 8 日現在の農薬登録内容に基づいて作成していますが、短期暴露評価等により登録内容は変更になる可能性があります (5 ページ参照)。農薬は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等を確認して正しく使用してください。

赤ナシ無袋栽培

- ・黒星病の防除を一層強化するため、[6 月中旬] のフルーツセイバーの希釈倍数を 1,500 倍に変更しました。
- ・近年問題となっているヒメボクトウ対策として、天敵線虫を成分とする生物農薬バイオセーフの樹幹注入とフェニックスフロアブルの散布による防除法を [6 月中旬：注意事項欄] に加えました。

露地巨峰・雨よけ巨峰・カキ

- ・オルトラン水和剤の登録内容が変更され、使用時期、使用回数、アセフェートの総使用回数、希釈倍数等を修正しました (表)。

クリ

- ・ベンレート水和剤の登録内容が変更され、使用時期を修正しました (表)。
- ・ベンレート水和剤の登録内容変更に伴い、収穫前日数の確保に特に留意が必要となることから、注意事項欄に「収穫前日数に十分注意する」の旨の記載を追加しました。

リンゴ

- ・前年、防除例に準じて防除を行っても黒点病が多発生した圃場向けに、[6 月中旬] の注意事項欄で、代替薬剤デランフロアブルの散布を追加しました。
- ・近年、カメムシ類が多発傾向にあり、防除が欠かせなくなっていることから、[7 月中旬] に MR. ジョーカー水和剤を追加しました。
- ・カメムシ類の防除効果を高めるため、山間地帯特産指導所で実施したフェロモントラップ調査をもとに、[8 月下旬] のサムコルフロアブル 10 (カメムシ類対象ではない) と [9 月上～中旬] のアルバリン/スタークル顆粒水溶剤 (カメムシ類対象) を入れ替えました。

- ・近年多発傾向にある褐斑病への対策を強化するため、[8月上～中旬]の注意事項欄に前年多発生した圃場向けにユニックス顆粒水和剤47の散布を追加しました。

チャ

- ・チャトゲコナジラミ対策強化の一環として、[夏芽生育期(8月上～下旬)]のハチハチフロアブルをチャトゲコナジラミに適用のある1,000倍に変更しました。

※ チャトゲコナジラミの防除に関する情報は、農林水産省のホームページに掲載されている「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除対策マニュアル」を参考にしてください。

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/>

ハウスナシ・ウメ

- ・大きな変更点はありません。

ナシ病虫害防除回数削減のトライ事例

- ・近年の黒星病の発生増加等により、防除回数の削減が困難なナシ園が多くなっていることから、平成27年版は作成を休止しました。

表 果樹等病虫害参考防除例の主な変更点（使用制限のかかる登録変更があったもの）

平成26年版

品目	時期、記載場所	薬剤名 希釈倍数	使用時期・使用回数 (有効成分・有効成分の総使用回数)
露地巨峰	開花直前(5月下旬) 注意事項欄	オルトラン水和剤 1,500倍	収穫 30日 前まで 2回 以内 (アセフェート 2回 以内)
雨よけ巨峰	発芽期(4月上旬) 注意事項欄	オルトラン水和剤 1,500倍	収穫 30日 前まで 2回 以内 (アセフェート 2回 以内)
カキ	新葉展開期(4月下旬 ～5月上旬)	オルトラン水和剤 1,000倍	収穫45日前まで 2回 以内 (アセフェート 2回 以内)
クリ	幼果期(6月下旬～7 月上旬)	ベンレート水和剤 3,000倍	裂果まで 4回以内 (ベノミル4回以内)
	8月上～中旬 (早生種)	ベンレート水和剤 3,000倍	裂果まで 4回以内 (ベノミル4回以内)
	8月下旬～9月上旬 (中生種) 9月上～中旬 (晩生種)		

平成27年版

薬剤名 希釈倍数	使用時期・使用回数 (有効成分・有効成分の総使用回数)
オルトラン水和剤 1,500倍	収穫 60日 前まで 1回 以内 (アセフェート 1回 以内)
オルトラン水和剤 1,500倍	収穫 60日 前まで 1回 以内 (アセフェート 1回 以内)
オルトラン水和剤 1,500倍	収穫45日前まで 2回 以内 (アセフェート 2回 以内)
ベンレート水和剤 3,000倍	裂果前(但し、収穫14日前まで) 4回以内 (ベノミル4回以内)
ベンレート水和剤 3,000倍	裂果前(但し、収穫14日前まで) 4回以内 (ベノミル4回以内)

※表中の太字ゴシック体部分に変更した箇所です。

※表に記載した平成27年版のオルトラン水和剤の登録内容は、平成26年11月17日現在(短期暴露評価による登録変更後)のものです。

※表に記載した平成27年版のベンレート水和剤の登録内容は、平成26年10月8日現在のものです。

※農薬の登録内容は、変更になる可能性があります。

※農薬は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等を確認して正しく使用してください。

短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更

農作物における農薬の残留基準値を設定する際、これまでは慢性毒性の指標である一日摂取許容量(ADI)^{注1}に基づく長期暴露評価が行われてきましたが、今後は急性毒性の指標として急性参照用量(ARfD)^{注2}に基づく短期暴露評価も併せて行われることになりました。

これに伴い、農薬によっては、適用作物が削除される等の変更が行われ、残留基準値がこれまでより小さな値に設定されることとなります。

登録変更については、十分な時間的余裕を持って申請されない場合が想定され、こうした場合は、現在流通している農薬を容器に表示された使用方法に従って使用しても、変更後の残留基準値を超過する恐れがあります。このため、農薬メーカーが変更後の使用方法をチラシ等で情報提供する時は、変更の登録を受ける前であっても、農薬容器の表示(ラベル)ではなく変更後の使用方法に基づいて使用してください。

次ページの表に、農薬メーカーが12月22日現在で使用方法の変更を情報提供している農薬のうち、適用作物が削除されるものを取りまとめました。既に所持している農薬についても、これらの作物には使用しないようにしてください。なお、削除となる作物以外でも、使用回数の削減等、使用方法に制限のかかるものもあるので注意してください。詳細及び最新の情報は、販売店等で配布されるチラシや農薬メーカーのホームページ等で確認してください。

注1：一日摂取許容量(ADI)…Acceptable Daily Intake の略。

ヒトが、ある物質を一生に渡って毎日摂取し続けても健康に悪影響がないと推定される一日当たりの摂取量。

注2：急性参照用量(ARfD)…Acute Reference Dose の略。

ヒトが、ある物質を24時間又はそれより短時間に経口摂取した場合に、健康への悪影響がないと推定される一日当たりの摂取量。

表 短期暴露評価の導入に伴い適用作物が削除される薬剤
 (平成 26 年 12 月 22 日現在, 農薬メーカーから変更について情報提供されたもの)

有効成分	剤型	農薬名 (屋号抜き商品名)	削除される作物名
アセフェート	粒剤	オルトラン粒剤	ミニトマト, はつかだいこん
		家庭園芸用 オルトラン粒剤	
		ジェイエース粒剤	ミニトマト
		スミフェート粒剤	
	水和剤・ 水溶剤	オルトラン水和剤	かぶ, かんきつ, だいこん, はつかだいこん, トマト, ミニトマト, なす, ブロッコリー
		家庭園芸用 オルトラン水和剤	かんきつ, だいこん, はつかだいこん, トマト, ミニトマト, なす, ブロッコリー
		ジェイエース水溶剤	かぶ, かんきつ, だいこん, トマト, ミニトマト, なす, ブロッコリー
		スミフェート水溶剤	なす, ブロッコリー
ベンフラカルブ	粒剤	オンコル粒剤1	キャベツ, きゅうり, すいか, だいこん, なす, ねぎ, はくさい, メロン
		オンコル粒剤5	いちご, オクラ, カリフラワー, かんしょ, キャベツ, きゅうり, すいか, だいこん, とうがん, なす, なばな, ねぎ, はくさい, ばれいしょ, ブロッコリー, ほうれんそう, メロン, レタス, わけぎ
		オンコルOK粒剤	オクラ, かんしょ, とうがん
		グランドオンコル粒剤	キャベツ, きゅうり, ねぎ
		ジャッジ箱粒剤	
		オンコルスタークル粒剤	きゅうり, なす, ねぎ, メロン
		オンダイアエース粒剤	キャベツ, すいか, だいこん, なす, ねぎ, はくさい, ばれいしょ, ブロッコリー, メロン
	液剤	オンコルマイクロカプセル	カリフラワー, キャベツ, にら, ねぎ, はくさい, ブロッコリー, レタス, 非結球レタス, わけぎ
カルボスルファン	粒剤	ガゼット粒剤	いちご, かんしょ, キャベツ, きゅうり, すいか, だいこん, とうがん, なす, ねぎ, はくさい, ばれいしょ, ブロッコリー, メロン
		アドバンテージ粒剤	いちご, かんしょ, きゅうり, すいか, だいこん, とうがん, なす, ねぎ, メロン
		アドバンテージS粒剤	かんしょ, だいこん, ねぎ

※表に記載した作物以外にも, 使用方法に制限のかかるものがあるので注意してください。
 ※表に記載した農薬以外でも, 今後, 使用方法が変更される場合があるので注意してください。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 12月20日から1月19日)

気象庁(12月18日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 12月20日(土曜日)から12月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 12月27日(土曜日)から1月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 1月3日(土曜日)から1月16日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。